

要旨

キーワード：高校生，SNS，利用行動，調整変数

1. はじめに

情報化が進む現代社会において、多くの人々が日々ネットに触れており、ネット利用の若年化が進んでいる。特に、10代のSNS利用率は80%と高いものになっている。また近年は若年層でのSNS上のトラブルも増加傾向にあり、教育的介入が重要視されている。

SNSにおける先行研究を概観すると、SNSの利用は心理社会的健康に様々影響をもたらすことが明らかになっている。しかしSNSの利用に焦点を当てた研究はまだ少ない。

そこで、SNS利用率が高い高校生を対象にし、SNSの使い方について、対人関係における影響や、SNSの利用やその結果に影響をもたらしている他の要因を検討していく必要があると考えた。

2. 方法

【対象者(在籍数)】A高校1.2年生551名，B高校1.2年生541名

【調査方法】無記名自記式

【調査内容】①属性(性別，学年) ②SNS利用について(利用するSNSの種類，期間，時間，相手，目的，使用する情報機器，フィルタリングの有無，学習経験，家庭でのルール) ③SNS効用認知④社会的紐帯⑤ソーシャルサポート⑥SNS依存度⑦SNS上での加害・被害経験⑧調整変数(自己管理スキル・リスク認知・マナー意識)

3. 結果と考察

高校生約1000名を対象に質問紙調査を実施した結果、回答者の約9割が現在SNSを利用していると回答していた。分析の結果、SNSを利用することでSNS上での被害・加害経験が増えたり、依存的な利用をするなどのネガティブな影響が見られたが、一方で社会的紐帯が強まったり、ソーシャルサポートを得られたりとポジティブな影響もあることが明らかとなった。また、自己管理スキル・リスク認知・マナー意識がSNSの利用とその結果を調整していることも本研究で明らかにすることができた。そして、SNSの学習経験や家庭のルールがあることでリスク認知やマナー意識を高める事が明らかにできた。

4. 結論

本研究の結果より、ソーシャルサポートを効果的に得ていき、SNSを依存的に利用することやSNS上で相手を中傷するなどの加害行為等、不適切な利用を制限していくには、単に使用者の利用時間や意識に目を向けるだけではなく、自己管理スキルやリスク認知、マナー意識を学校と家庭が一体となって高めていくことが効果的であることが示唆された。また、SNSモラル教育や家庭でのルール作りが重要であることも示唆された。